東京建物三津寺ビルディング

Tokyo Tatemono Mitsutera Building

No. 12-082-2024作成
新築
寺院/ホテル/物販店舗

発注者	東京建物株式会社
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社

カテゴリー

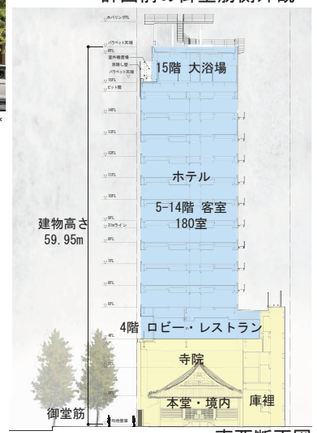
A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO_2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

ホテルと共存しながら、本堂を次世代へ引き継ぐ

御堂筋側外観全景*

計画前の様子***

計画前の御堂筋側外観***



東西断面図

寺院・ホテル・店舗を併設する複合建築

大阪ミナミに位置し「みってらさん」の愛称で古くから親しまれている三津寺。江戸時代後期から残る木造の本堂は第二次世界大戦の戦禍から逃れ、100を超える色とりどりの花卉図、金箔や漆、色絵で彩られた柱や彫刻など豪華絢爛な江戸美術の荘厳が残っている。三津寺は長く信仰の中心として維持してきた本堂をいかに次の50年、100年につなげていくかを思案していた。本プロジェクトは、江戸時代末期建立の木造本堂を曳家して保存し、ホテルと共存することで持続可能な寺院経営を目指す、都市型寺院の新しいプロトタイプを提案している。

3層吹抜けの境内に既存の木造本堂をそのまま曳家し保存

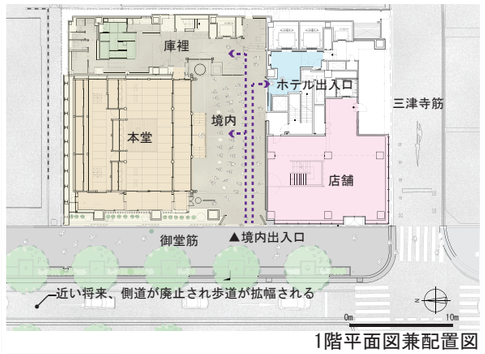
第二次世界大戦の戦果を逃れ江戸時代に建てられた木造本堂を敷地内に残しながら計3 回の曳家を行った。

①解体後(本堂だけを残し旧庫裡は解体)　②曳家1回目(北→南へ15m移動)　③新築基礎工事(敷地北側の本体建屋の杭、基礎を施工)　④曳家2回目(南→北へ18m移動)　⑤曳家3回目(東→西へ6m移動)　⑥新築基礎工事(敷地南側の本体建屋の杭、基礎を施工)

地域と建物をつなぐ-仏教を身近に感じる街に開かれた境内

本計画では、御堂筋に面した西側を敷地の正面とし、寺院とホテル双方が御堂筋からアクセスすることとした。これからの時代、御堂筋を行き交う人の流れを呼び込むことが地域社会との繋がりとなると考えた。境内は24時間開放され、街に開かれた境内を本計画の中心に据えることで、仏教を身近に感じられる空間を実現した。境内では護摩行などの宗教儀式が行われるだけでなく、講演会や音楽ライブなど様々なイベントが催される。開かれた三津寺の境内が文化の発信地となっていくことを目指している。

境内は日中開放され誰でも立ち入り可能**



1階平面図兼配置図

護摩行の様子

イベントの様子

3層吹抜けピロティに本堂が建つ**

過去と現代をつなぐ-本堂軒の復元、向拝撤去と虹梁部材の転用

本堂は曳家とともに江戸時代時点の姿に戻す改修も行った。昭和初期に増築された本堂向拝と庫裡を解体し、正面と御堂筋側の軒を90年ぶりによみがえらせた。また解体した向拝の柱は大数珠として境内に、向拝の虹梁は境内出入口の装飾として転用した。古材や保存物を用いてこの建物の新たな顔を作っている。

改修前***

生かし取りした古材

改修後**

大数珠

設計担当者

建築：平井浩之、宮本育美、水野裕介、構造：西本信哉、阪井由尚、岩井昭夫、豊島裕樹
設備：湯浅孝、鈴木真人、古角敬司、伝統・保存：松尾浩樹、水野俊、鬼頭貴大

撮影/*左海一郎（㈱エスエス大阪支店）**撮影/伊藤彰（アイフォト）***撮影/岩崎和雄（デジクリ）

建物データ

所在地	大阪府大阪市
竣工年	2023　年
敷地面積	893　㎡
延床面積	9530　㎡
構造	S造一部SRC造
階数	地下1階、地上15階

省エネルギー性能

BEI値	0.73
BPI値	0.82

主要な採用技術(CASBEE準拠)

Q3 .1.	生物環境の保全と創出（外構緑化）
Q3 .2.	まちなみ・景観への配慮（三津寺の本堂を曳家工法により保存、新たなシンボルの形成）
Q3 .3.	地域性・アメニティへの配慮（地域に開かれた境内空間の提供、豊かな中間領域の形成）
LR1.1.	建物外皮の熱負荷抑制（高性能ガラスの採用）
LR3.1.	地球温暖化への配慮（既存木造本堂を保存することでLCCO2削減）
LR3.2.	地域環境への配慮（日陰の形成）

サステナブル建築事例集／一般社団法人日本建設業連合会
※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します